

平成29年第2回議会報告会（市民と議会のつどい）実施報告書

開催日時	平成29年11月11日（土）9時30分 ～ 11時32分	
開催場所	山城支所別館ホール	
担当議員	班代表者	片岡 廣
	司会者	森岡 譲
	報告者	谷口 雄一
	記録者	西山 幸千子
	班員 (上記以外)	高味 孝之・河口 靖子・倉 克伊
一般参加者数	8人	
主な質疑 ・意見等	<p>Q： 木津川市の問題ベスト5は。</p> <p>A： 待機児童問題（城山台の若い世代流入）、水道管の老朽化による漏水対策。</p> <p>A： 住む場所、年齢、世帯構成で違いがある。市街地では子どもたちが増えることでの問題。廃屋、鳥獣被害。待機児童・引っ越しなどによる中途での児童増。</p> <p>A： 全員が共通で「5つの問題」は捉え方で違いがあると思う。</p> <p>Q： ①LGBTQは市民で何人いるのか。お金がいくらかかるのか。 ②「検討します」の回答で、その後の追求はどうなっているのか。 ③「議会報告会」を開くのに、職員手当など経費がたくさんかかっているのでは。 ④議会だよりの一般質問の記事の中で、「学校主導の情報発信」とあるが、情報発信を求めて、どうしたいのか。</p> <p>A： ④地域主導と入っているが、教育委員会が主体的ではない。教育委員会として情報発信をしてほしいと言う願いから質問した。</p> <p>Q： 質問も言いつばなしでは良くない。 山城地域の水路の問題を取り上げていたが、質問も回答もちゃんとできていないと感じた。</p> <p>A： 広報の紙面上、字数の制限もあるので、全部が載っていない。議事録等もあるので、確認ができる。ぜひ、傍聴にも来てほしい。</p> <p>Q： 行政側の話をもっと載せてほしい。</p> <p>A： 議員も持ち時間の中で再質問しているが、紙面に限りがある。 ベスト5もそれぞれの議員や地域での捉え方もある。議会としては「短期・中期・長期」で、行政側を見てチェックしている。</p>	

主な質疑
・意見等

Q： 防災関係、台風22号の時の「避難所の確保ができました」と言う放送で、避難所がどこなのかが放送されなかった。地域長を通し副地域長に知らされる。流れとしてどうか。

また、なでしこコミュニティセンターにある屋外拡声器が地元知らされずに撤去された。地元との一定の協議が必要ではないか。

A： 各議員が防災行政無線の件も、質問で取り上げている。少しずつ聴こえやすいように改善が進んできた。取りまとめて市長にも伝えている。

A： 加茂町内でも問題が起こっている。(聴こえにくい)

A： 市に避難場所を知らせるようにと伝えた。情報伝達の手段も含め改善が必要。HPに出るのも遅い。まだ、避難場所や避難方法の整理が必要である。

Q： 核兵器全面禁止の意見書は、反対の意見が分からない。反対する理由を教えてほしい。

補助金・委託金だが、上部団体に払う納付金の見直しを「脱退」も含め言われている。青少年育成委員会 ボランティアの団体は地域に根ざしている。具体的には教育委員会から言われた。補助金が削られている実情を知ってほしい。

椿井で水道管の事故があった。改修の計画は立てられているのか。お金はかかるが災害の時にも大切である。(要望)

A： 補助金の件は、行政に伝える。

核兵器・核戦争は誰も望んでいないが、自分の所属が与党なので同調した。

A： 個人的にはゴールが同じ。核不拡散防止条約にも入っている。核保有国が入っていないのであれば現実的な路線ではない。日本政府が何もしていないのではない。アプローチの違い。

A： 反対の意見を初めて知った。本来は「討論」と言う形で伝えるべきだと思う。そうすれば市民の皆さんに分かってもらえる。

A： 水道の件で迷惑をかけたことはお詫びする。老朽化による工事をした時にそこを触ったことで起きた。計画を立てて進めているが、産建委員会からも再度要望する。

A： 水道の石綿管(改修)は、32年度に全体が完了する。

Q： 水道管のことで防災行政無線を使うと連絡があった後、30分を過ぎても何も対応がない。市役所の対応が問題である。

A： 対応をきちんとするように、行政に求める。

Q： 過疎化が進んで空き家がある。特定空家の法律ができたと思うが、崩壊寸前の空き家の対策はどうなるのか。どこまで進んでいるのか。

災害時のマニュアルなどがない中で、どう対応すべきかが分からない。マニュアルが必要。

A： 空き家対策は特別措置法ができた。市は遅いが審議会で「認定」と「利活用」の会議が始まった。特定空家の指定をしてから今後のことが決まる。議会としても進めるよう言っていきたい。

「特定空家」の認定には時間がかかる。今進めているところ。

家があると税金が安くなる。それで進んでいなかったが、税金面でも改善されてきた。相続でも問題が多い。

防災マニュアルが必要だが、区長が大変なのが実態である。

Q： 防災組織はあるが、市役所から夜中に連絡があった時、「どうすればいいのか」と聞くと「何もすることがない」と言われた。それならば夜中の連絡が必要なのか。

あまり防災行政無線を使い過ぎると、実際に必要な時に「狼少年」のようになるのではないか。高齢者の避難準備など、どのように対応したらいいのかも分かりづらい。

A： 現場の皆さんが、ご苦労されているのが分かっていない場合が多い。そこも踏まえて行政に伝える。

Q： 木津川市として儲かるような提案をしてほしい。「木津川市株式会社」として考えてほしい。例えば、市内には竹林が多いので、燃やして発電し、関電に売る。

お金のかかる要求ばかりより、儲かることを考えては。

A： 個人的に、木津川の川砂を売るなどで収入が得られ、川もきれいにできるのでは。今後、一般質問でいろいろと提案を考えていきたい。

Q： ラジオから上狛の国道24号線の渋滞情報を聞く。上狛地区内を抜け道として利用する車が多い。児童の通学路にもなっており、解決できないか。

A： 一方通行にとの話も聞いたが、住民全体の理解が必要。北行きは減ったが、南行きが混んでいる。

将来的には新しい橋が完成し、宇治木津線を通り、城陽のスマートインターとつながれば、渋滞は緩和されると思う。

Q： 山城地域内の東西の道が無い。

A： 国道24号線は、川の堤防を走っている区間がある。国道24号線が災害時に決壊することもあり得る。その代替道路としても整備される予定。

東西の道路は都市計画では3本ある。計画はあるが、市道か府道かで違う。あくまでも代替道路が進んでからの話である。

Q： 一方通行については、例えば通学中の時間帯で設定してもらえないか。

A： 地域で要望として正式にあげてもらい、行政から公安委員会に正式に提出するのがいい。地元での意思統一も大切。

	<p>ごみ問題</p> <p>Q：(資料説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市販のごみ袋との値段の違い。 ・ごみ処理費の高騰が理由なのか。原因は。 ・ごみ処理費は重量で計算される。ごみ袋は容量で金額が決まる。処理費用減は難しいのでは。 ・所得により、負担感に差が出る。公平ではない。 ・クリーンセンター稼働にあわせての有料化に疑問。 ・市にとって、新しい収入源としての考えではないか。 <p>Q： 山城地域は、「拠点収集」であるが、他はどうなのか。粗大ごみの時にも大きな波板が大量に出ていた。その地域に関係のないごみが出されている。戸別収集は出した人が分かるので、対応できるが、拠点収集はできない。その対応をしてほしい。</p> <p>袋にシールを貼る方法で、もう少し安くできるのではないか。大型ごみもシールを貼って出す方法にしてはどうか。</p> <p>A： 木津地域では紙に「大型ごみ」と書いたものを貼付けて出している。木津は戸別と拠点回収が混在している。拠点へ統一するには難しい。</p> <p>加茂は戸別が原則で、車が入れないところは拠点回収である。収集の統一にはかなり時間がかかる。</p> <p>Q： 木津はきっちりと出していると言っても、戸別で自分の家の前に出すので、きちんとしないと持って行ってもらえない。</p> <p>拠点収集は、車で通りすがりに通勤途中に捨てていくこともある。カラスがつついても誰のごみか分からない。</p> <p>大型ごみはどうなっているのか。</p> <p>A： 大型ごみも戸別回収。</p> <p>Q： 金額は高くしないと減量しない。その使い方を特別会計にして、ごみの回収費用やコンポストなどに使うことに賛成である。</p> <p>A： ごみの回収方法は3町でそれぞれ違う。木津地域のマンションなどは、カゴで囲って出す場所が決められている。</p>
<p>質問・要望等で行政側へ報告すべき内容</p>	
<p>その他特記事項</p>	

平成29年11月27日

木津川市議会議長

高味 孝之 様

平成29年度第2回議会報告会

第2班 代表者

片岡 廣

Ⓜ